

「不適切な投稿」問題から考える情報発信の授業

The lesson information dissemination which considers from improper pictures posted.

岡本 弘之*、浅井 和行**

Hiroyuki OKAMOTO*、Kazuyuki ASAI**

聖母被昇天学院中学校高等学校*、京都教育大学**

Assumption High-School*、Kyoto University of Education**

要約：スマートフォン・SNSの普及により、若者の多くが何らかの情報発信を行っている現状がある一方、頻発している「不適切な投稿」をめぐる問題など情報発信についての知識不足も指摘されている。これら現状をふまえ、本研究では「情報発信」のメディアリテラシーを育成する高校情報科の授業を企画・実践し、効果を検証したい。

キーワード： 高等学校 情報科 授業実践 情報発信 メディアリテラシー

1. 研究の背景および目的

2013年7月の「コンビニエンスストアの冷蔵庫に入った画像を投稿した」事件をきっかけに、若者が問題ある行動をした写真をSNSに投稿し、問題化する事象が多発している。この背景には情報社会の進展に伴い、簡単に情報発信できる環境が普及している一方、SNSや情報発信の責任についての知識が不足していることがあげられる。

浅井(2011)¹⁾はメディアリテラシーの定義について「メディアを批判的に読み解く力」だけでなく「メディアによって創造的に表現し、メディアを効果的に活用する能力である」と定義し、情報の受け手としてだけでなく、発信者としてのメディアリテラシーを育てる必要性を指摘している。

本研究では高校の情報科の授業において、「不適切な情報発信」の事例を取り上げ、そこから派生する問題を考えることを通し、「情報発信者」としてのメディアリテラシー育成をめざした授業事例を開発・実践を行い、その効果を検証する。

2. 研究の方法

授業を企画し、勤務校の高校2年生(女子)の情報Cの2学期で、2時間を使った実践を行い、授業後の振り返りから考察を行う。

3. 授業の実践

3.1. 授業のねらい

最近起こっている「不適切な投稿」をおこさず、賢く情報発信ができる力を育てるために、授業は時事問

題を題材に、以下の目標で企画した。

- (1) 不適切な投稿の背景を考える
- (2) 事例から情報発信の責任を知る
- (3) 個人情報が漏れにくい情報発信を考える
- (4) 自分の情報発信について考える

授業の方法としては一方的に教え込むのではなく、付箋・KJ法を使った「考える」「話し合う」活動を多く取り入れ、生徒の話し合い結果をもとに、授業者が知識を補足する形とした。

3.2. 授業の展開

3.2.1 「不適切な投稿」の背景を考える

7月以降発生している「不適切な投稿」による事件を紹介、これらが起こる原因・背景について4人班で話し合い、KJ法で整理し、発表させた。

3.2.2 事例から情報発信の責任を考える

投稿の結果、どのような影響(閉店、損害賠償、退学など)を与えたかについて、実際の事例をもとに説明し、情報発信の影響・責任を考えさせた

3.2.3 個人情報が漏れにくい情報発信を考える

「不適切な投稿」を探し保存・投稿しているサイトや、「特定班」とよばれる人達が、これら不適切な投稿をした個人の情報を特定し、掲示板にさらしている構造・現状を説明した。

ここから、匿名の投稿から個人情報がどのようにして特定されるのかについて話し合いをさせ、発表させた。ここでの気づきから個人情報が特定されやすい情報発信の具体例について確認した。

次に自分のIPアドレスを調べる実習も行い、捜査機関はこのアドレスから個人が特定可能ということを確認させたり、自分の名前を検索エンジンで検索させ

たりする実習を行って、自分の情報が知らない間に自分の情報がヒットしないかについて確認させた。

3.2.4 自分の情報発信を考える

「情報発信の注意事項」をワークシートにまとめさせた。注意事項を知るだけでなく、これらを知った上で賢い情報発信について考えさせるために、「どのような情報を SNS・ブログに載せればいいのか」という話し合いを行い、同じく KJ 方で整理、全体に発表させた。

4. 授業の結果

4.1. 不適切な投稿の背景について

「不適切な投稿」の原因・背景は？	
<p>そもそもモラルの問題・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目立ちたい <ul style="list-style-type: none"> - 悪乗り - かっこいいと思っている - 有名になりたい - 自慢したい ・ 無自覚・軽い気持ち <ul style="list-style-type: none"> - 笑ってもらえると思っていたから - 悪いことだと思っていない - 大事になるとは思っていない ・ 好奇心 <ul style="list-style-type: none"> - ふざけてやってみている - おもしろいから - 暇つぶし - ニュースに出たい 	<p>情報社会ゆえに・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなに見てほしい <ul style="list-style-type: none"> - 自分のサイトを見てほしい ・ SNSだから <ul style="list-style-type: none"> - リツイート・シェアを増やしたい - コメントを期待して - フォロワーを増やしたかった - フォロワーが見ているから ・ ネットの特性を知らない <ul style="list-style-type: none"> - 広がるとは思っていない - ネット環境が身近にある - どこでも撮影投稿できる環境がある ・ ネット環境に慣れている <ul style="list-style-type: none"> - 投稿することに抵抗が少ない - 投稿慣れして感覚がマヒ

資料1 生徒の意見まとめスライド1

生徒の主な意見は「目立ちたい」「軽い気持ち」といった投稿者のモラル問題と、「仲間内だけで見せようとした」、「こんなに広がるとは思っていなかった」というインターネットにおける情報発信への知識不足や慣れ、「ネット環境やカメラが身近にある」という情報社会の問題の大きく分けて二つの問題をあげていた。

また両方に関係する「反応が目に見える SNS ゆえに、注目されたかったのでは？」という意見も多く、「リツイート、フォロワー、コメント、シェア、いいね」といった反応が返ってくるゆえに、投稿者は反応を期待できそうな投稿をしてしまうという意見である。

授業者のねらいとしては、投稿する個人のモラルの問題もあるが、携帯電話にカメラがついていたり簡単に投稿できるネット環境が普及した「情報社会の進展」が背景にあることまで気づいてほしいと考えた。

4.2. 個人情報が漏れにくい情報発信を考える

個人情報をどう特定するか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 位置情報から <ul style="list-style-type: none"> - ツイート・投稿時 - 写真から ・ 投稿された写真から <ul style="list-style-type: none"> - 位置情報 - よく行く場所の特定 - 制服 ・ プロフィール <ul style="list-style-type: none"> - あだ名、住んでいる地域 - ブログのURLから - ニックネーム・IDから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォロワー・友達から <ul style="list-style-type: none"> - 交友関係から学校、年齢、地域の特定 - 友達との会話で名前があるときも・・・ - 1人が学校名を出していたら特定できる ・ 過去の投稿を遡る <ul style="list-style-type: none"> - つぶやき、会話から ・ 他のサイトも調べる <ul style="list-style-type: none"> - 同じIDで他のSNSも調べ

資料2 生徒の意見まとめスライド2

位置情報、画像、プロフィール、過去の投稿といった本人の情報を組み合わせると特定できるという意見と、生徒が多く指摘したのはフォロワー・友達から学校・地域・年齢が特定できるというものであった。具体的には「コメントで〇〇ちゃんとよびかける」、「友達の中にはプロフィールに学校などを書いている人がいる」という例があがった。自分がいくら気をつけていても、友達やフォロワーの情報から芋づる式に個人情報漏れてしまうという指摘である。

授業者のねらいとしては、特定する方法を考えることで、「だから気をつけて情報発信をしよう」という意識を育てたいと考えた。自分だけでなく友達のためにも個人情報の発信には気をつける必要があることに気付く生徒が多かった。

4.3. どのような情報発信をすればいいか？

ここまでの注意する点をふまえ、情報発信する際にどのような工夫・内容とすればいいかについて、具体的に意見交換を行った。話し合いの結果としては、今までの注意事項の話をもとに、かつ読む相手にとって参考になる情報は何だろうと考えた内容であった。

5. まとめ

最後に生徒が書いた振り返りの内容から、本実践の効果をまとめると、以下の4点となる。

- ①多くの生徒は SNS など情報発信をしているが
- ②情報発信の知識が多い者と少ない者があり
- ③今回の話し合いや授業者のまとめから、情報発信についての新たな知識を得たものが多い
- ④得た知識を参考に、これまでの発信やこれからの発信について考え、今後もよりよい情報発信を行いたいと考えた

高校生の多くが SNS による情報発信を行っている今、「不適切な投稿」を行なう生徒を作らず、賢く情報発信を行える生徒を作る情報発信の教育は不可欠である。今後も生徒の現状にそった授業実践を開発したい。※本研究の一部は、科学研究費補助金（基盤研究(C)）小学校新教科「メディア科」開発に関する基礎研究（平成25～27年度、研究代表者：浅井和行）による。

参考文献

- (1) 浅井和行(2011)「新学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育の要素分析」京都教育大学教育実践研究紀要第11号、pp.209-218.
- (2) 岡本弘之、浅井和行(2012)「話し合う情報モラルの授業」日本教育メディア学会第19回大会発表論文集、pp.99-100